

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472201670	事業の開始年月日	平成16年4月1日	
		指定年月日	平成16年4月1日	
法人名	株式会社 湘南みどり園			
事業所名	グループホーム 花樹			
所在地	( 〒251-0003 ) 神奈川県藤沢市柄沢 372			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成25年1月21日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月24日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『ゆっくりのこころ』を理念に掲げ、利用者個々の生活ペースに合わせたケアを実施しています。園芸療法の活動を通じて、草花を植え、フラワーアレンジメントで花を生け、心を和ませたり季節感を感じ、ボランティアの方々とも会話を楽しんで頂いています。ギター演奏会、ハーモニカ演奏会等を開催し利用者の方々には演奏に合わせて童謡唱歌等を合唱して歌を楽しんでおります。生活面では出来る方には散歩や買い物などの生活リハビリを行い、野菜や魚を取り入れた食事作りを利用者の方々にもお手伝いして頂き、皆様お元気に生活されています。健康面では月に2回の訪問診療といつでも対応していただける医療体制で利用者の健康管理を行っています。
--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年2月7日	評価機関 評価決定日	平成25年4月18日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の特徴】</b> 当該事業所は、JR藤沢駅からバスで約10分、藤が岡中学バス停から、徒歩10分の大型量販店などの立ち並ぶ幹線道路から少し入った閑静な住宅地の中に位置している。建物は木造の2階建ての建物で、エレベーターも設置されている。ホームでは母体法人の日本ガーデンデザイン専門学校のノウハウを活かし、花や植物に接する生活の中で理念に沿った介護を行っている。理念の「ゆっくりのこころ」を毎年の運営方針に掲げ、利用者のこころに寄り添い安心して過ごして「ゆったり」と感じてもらえるサービスの実践に努めている。</p> <p><b>【地域との連携】</b> 並木台自治会に開設当初より加入し、総会や防災訓練や清掃などの地域行事に毎月参加している。地区の民生委員の来訪や、近隣の子どもがホームの行事のそうめん流しへ多数参加したり、地域の一員として日常的に交流している。ギターや三味線、主婦のコーラスなど地域のボランティアが来訪し利用者の楽しみとなっている。地域の福祉関係者のネットワーク連絡会での情報交換も行っている。</p> <p><b>【園芸療法】</b> 玄関周りや敷地内の花壇では、利用者が個別のプランターに草花を植え、ホームでの生活に彩りを添えている。車椅子の利用者も庭での作業が可能となるようにコンテナを高くするなど工夫されている。家庭菜園での収穫された野菜は食卓に上がり、家族会で家族にも振る舞われている。</p>
--

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 花樹
ユニット名	花樹 1階

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

事業所名	グループホーム 花樹
ユニット名	花樹 2階

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との連携を大切にし調和の取れた生活が送れるよう『ゆっくりのこころ』という理念を掲げ介護サービスを実践している。	ホーム独自の理念「ゆっくりのこころ」に基づいたケアをすることを毎年の運営方針に掲げている。入職時の研修や申し送り時など折に触れ話している。理念を共有して管理者と職員は、利用者のこころに寄り添い安心して過ごして「ゆったり」と感じてもらえるサービスの実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会活動や防災訓練、地域の清掃活動には積極的に参加し、そうめん流し等の行事には地域の方々に参加していただき交流を図っている。	並木台自治会に開設当初より加入し、地域行事に参加している。地域の一員として民生委員や近隣の子どもなどと、日常的に交流している。ギターや三味線、フラワーアレンジメントなど地域のボランティアが来訪し、利用者の楽しみとなっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政、公民館主催の地域住民対象の勉強会や行事に参加したり、保健所にて行われる認知症の方と家族との交流会に参加して、認知症の方の介護支援等についてアドバイスしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催して話し合いで出た意見、提案等を取り入れサービス向上に活かしている。	市の介護保険課職員や地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、自治会役員、家族代表が参加している。事業所から行事やホームの状況や外部評価結果の報告などを行い、現在の取組みについての意見をもらってサービス向上に活かしている。今年度は事業所として地域の認知症高齢者の相談支援に取り組む為のホームページ改修について提案をした。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政と密接に連絡を取り合い、サービスの向上に努めたり、グループホーム連絡会などで市町村担当者と情報交換を行っている。	市の介護保険課や生活保護の担当と日頃から連絡を取っている。市主催の行事の相談会で市民から相談を受けたり、2か月に1度、市のグループホーム連絡会に参加し、市の担当者と協力関係を築くように努めている。月に1回介護相談員を受け入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の研修会に参加し身体拘束をしないケアを実践している。玄関は番号インプット式で開けられる。	職員は県主催の研修や内部研修で身体拘束をしないことを学んでいる。玄関は家族の了解を得て、不意の外出をする利用者に対応して番号入力すればあけられるようにした。ユニット入口は夜間を除いて施錠はしていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを研修で学び、理解を深めながら虐待防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が成年後見制度を活用しており、職員も権利擁護について理解している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には花樹の重要事項説明書、契約書、特徴などを十分説明し、理解、納得を図っている。変更時には家族会を開き説明している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見等申し立ての機関を重要事項に明記し、契約時に説明している。家族の来訪時や家族会などで意見、要望を聞き入れている。	年2回の家族会や運営推進会議で意見や要望を聞く機会がある。ほとんどの利用者の家族が月に1度は来訪するので、職員から積極的に報告し、意見を聞いている。月に1回介護相談員を受け入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや全体会議等の場にて代表者や管理者は積極的に職員の意見を聞き入れている。管理者は常日頃、介護現場に入り職員の意見を聞き入れている。	代表者や管理者は積極的に現場で職員から意見や提案を聞いている。シフトについての意見を幹部職員参加の運営会議に諮り聞きいれたり、看取り対応について職員各自から意見を聞いて事業所としての対応や方針に反映させた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい様に希望の休みを聞き入れたり、有給休暇を取得しやすいように配慮している。研修の機会を多くしたり、資格を取得させ給与水準を高めるようにしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や各種外部研修には参加を促している。又必要と思われる知識は社内研修で全職員を対象に実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	藤沢市グループホーム連絡会等の場にてネットワーク作りを行っている。相互訪問する企画を作成中である。小規模事業所連携事業に参加し研修会を実施している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接や体験入居を通じて本人の訴えや不安を受け止め、傾聴し安心して利用してもらえるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に、事前面接の機会などにて家族の不安、要望などに対して、親身に受け止め信頼関係を築く努力をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き入れ、何を求めているのかを見極め対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生活の中で一緒に食事を作ったり、掃除をしたり、今までの生活歴を聞いたりして職員と利用者が共に生活する関係作りをしている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人がグループホームで穏やかに、安心して生活を送れるように面会に来て頂き、家族と連携して共に支えあう関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族との会話を通じて馴染みの人や場所への理解を深め、継続して関係を維持できるようにしている。家族に電話や手紙で連絡したりしている。	入居時のアセスメントや入居後の利用者との会話から馴染みの関係を把握している。知り合いの来訪時には茶菓でもてなしたり、手紙や電話の連絡の取り次ぎを行ったりしている。家族との墓参りや外食、法事、日帰り温泉旅行の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性、個性を把握して、孤立しないように注意し、人間関係の維持に努めている。日々の生活の中で利用者同士が和やかに生活出来るようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も施設等に面会に行ったり、家族との電話などで相談に応じるなどして、これまでの関係を断ち切らないようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活を支援するため、本人を中心に家族とも相談して、本人の意思、意向に沿ったケアを行っている。	家族からの聞き取りや日常生活の中で把握している。職員は「何が食べたいか」や「どこに行きたいか」など利用者一人ひとりに聞いて支援をしている。把握が困難な場合は、職員が笑顔で接し、散歩時や入浴時などにじっくり聞いたり、表情や仕草や様子を察知して本人本位に検討するよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居後のコミュニケーションで生活歴や生活環境などの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや利用者の日々の生活内容を記録し、申し送りや連絡ノートを活用などにより職員間で情報の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き入れアセスメントを行い、サービス担当者会議などを経てチームで介護計画を作成している。	入居時のアセスメントや、利用者や家族、医療関係者の意見を基に職員がサービス担当者会議で話し合い計画を作成している。原則6か月毎の見直しだが要望や状態の変化があれば、その都度話し合い見直しをしている。見直しの1か月前にはモニタリングを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者毎に一日の様子を記録し、更に日々の中で職員が気付いた事を連絡ノートに記録して情報を共有し、それを集約し介護計画に反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日本ガーデンデザイン専門学校と連携をとり園芸療法を取り入れたり、ボランティアによる音楽会などや職員の特技を活かした多様な支援活動を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、子供会、民生委員、ボランティア、警察、地域包括センター、消防等の地域資源を把握、活用しながら利用者支援をしている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携により主治医の往診を月に二回行い、健康管理を行っている。緊急時にも主治医と連絡、指示を取れる体制にしており、利用者の健康管理を行っている。	利用者全員が事業所の協力医を受診している。2週に1度の往診と週1回看護師の健康管理や医療相談がある。受診結果は「連絡ノート」で全職員が情報を共有し、家族には電話で連絡している。往診医には24時間連絡が取れる体制で適切な指示や意見を受けられる。指示により訪問マッサージを受けている利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師と介護職員は連絡ノートや介護記録等で情報を共有し、適切な受診や医療が受けられるように支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した際は頻繁に見舞いに行き、病院職員、家族との情報交換や相談を行い、安心して治療が受けられるように支援している。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針を職員、家族、医療関係者で明確にし、共有化していく。終末期ケアの研修会も実施している。本人、家族の意向を大切にしている。</p>	<p>入居時から「医療連携体制加算に係る同意書」で話し合いに基づいた方針で看取りを行うことを本人・家族に説明をしている。家族会で「緊急時の事前確認書」を提示し方針の共有化に努めていく予定である。職員の研修も実施している。現在までに2件の看取り実績がある。</p>	<p>重度化の状況により関係者間で話し合いを積み重ね、段階に応じた方針を共有し、事業所の体制整備に向けてさらに取り組むことを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている</p>	<p>看護師や応急手当普及員の職員から応急手当の指導を受けたり、消防署が行う救命講習会に積極的に参加して実践力を身につけている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練を実施しており、地域住民、消防、家族も参加して対応している。グループホーム連絡会でも地域での防災対策を検討している。</p>	<p>年2回避難訓練を実施し、1回は消防署立ち合いで、夜間想定訓練も1回行われている。地域住民が毎回参加している。スプリンクラーも設置済みである。水や食料などの備蓄を3日分準備している。市のグループホーム連絡会の防災対策部会で対策マニュアル作りに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けや、介護サービスを提供している。プライバシー保護の研修会も実施している。	入職時や年に1度の研修でプライバシー保護や尊厳を損ねない声かけや対応について話している。特に居室への入室時、トイレ誘導時、入浴時など場面に応じた声かけを徹底している。個人情報のファイルは鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の希望を聞き、個性を尊重して可能な限り本人の希望に沿う対応をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを大切にし、希望に沿った日々を送ることが出来るように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の自発的なお化粧品や、訪問美容を受けるなどの支援をしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が庭で育てた野菜を収穫し調理したり、利用者の希望のメニューの食事を作り食生活を楽しんでいる。	事業所は手作りの食事を大事にして、ホームの畑でとれた野菜を食卓に供したり、魚屋から新鮮な魚を配達してもらっている。メニューは当日の食材や利用者の希望により決めている。利用者は下ごしらえや盛り付け、配膳、下膳などできることを職員と一緒にやっている。職員は見守りながら一緒に食事をしている。毎月の外食会は利用者の楽しみとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の一人ひとりのADL及び食べる量や状態に合わせて普通食からきざみ食まで支援している。ターミナルの方には栄養補給剤を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方には毎食後口腔ケアを実施している。その他利用者には朝、夕食後に口腔ケアを指導している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ADLに合わせて極力トイレで排泄していただいております。失敗したら清拭し清潔にしています。失禁のある利用者には声掛け、一部介助で支援している。	利用者により排泄チェック表に記入してパターンを把握し、連絡ノートで職員間で情報を共有し、トイレでの排泄に向け支援している。失禁時にはさりげなく声をかけ、温めたタオルを使い清潔を保つように努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力自力排便を心がけているが慢性的便秘の方は医師の指示で便秘薬を処方していただいている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者一人ひとりの体調及び希望により入浴を促している。強制はせず入浴して気持ち良かったと言っていたかのようにしている。	週3回は入ってもらおうよう支援している。毎日入りたい方や午前中入りたい方など個々の希望により入浴できる。入浴の間があく方には職員を代えたり「往診の先生の受診があるから」と声かけしたり工夫をしている。利用者は入浴剤やゆず湯や菖蒲湯で入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜間良眠が出来るように昼間、散歩や歌をうたったり身体を使うように支援している。身体が疲れている時は居室で休息していただいている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの服薬管理は処方箋ファイルを確認して対応している。症状の変化は毎日確認し、変化がある時は主治医の指示を仰いで対応している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりが充実した毎日を送れるように食事の手伝い、洗濯物の整理、歌、散歩、ゲーム、買い物などをし、生活を楽しめる支援をしている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日には極力屋外へ出て花を見たり、散歩、買い物等の本人の希望を満たすようにしている。</p>	<p>日常的に散歩や買い物など車椅子の方も戸外に出かけられるよう支援している。季節の花見やフラワーセンターへの外出や、毎月の外食会の後の江の島や公園への立ち寄り、利用者の楽しみとなっている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭トラブルが生じないように配慮して、お金の所持や使うことの出来る方には各人のお金で買い物の支援をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば家族へ電話を掛けたり、年賀はがきや暑中見舞いはがきを出していただいている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花、手芸、写真、習字等を飾り生活感や季節感を楽しくするようにしている。	玄関周りや花壇には季節の草花が彩りよく植えられている。リビングや廊下には手作りカレンダーやお雛様、外出時の写真など季節感や生活感がある居心地よい空間となっている。開口部は南向きで明るい。加湿器や換気で温度や湿度に配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどを配置して好きな場所に自由に選べるようにしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物の持込の制限はなく、出来るだけ馴染みのある物を持ち込むように促している。馴染みの椅子や写真の展示も行い居心地の良い生活ができるようにしている。	居室にはエアコンやクローゼット、ベッドなどが備えつけられている。使い慣れたタンスやいす、フラワーアレンジメントの作品や家族写真、仏壇などが持ち込まれ居心地よく過ごせる空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のADLに合わせて「できること」、「わかること」を活かせるように手摺を追加したり、段差の解消により安全で自立した生活ができるように工夫している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ワイルドポニー 花樹

作成日 平成 25 年 4 月 20 日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	童度化から終末期の段階に応じた方針体制の整備を行なう	・終末期(看取り)に関する指針の作成 ・看取りに関する指針の家族・職員の共有と実践	・看取りに関する指針の作成とマニュアル化の申請。 ・家族会で看取りの説明と職員の研修	1年間
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。